

1～“ひびき”のゆくえ～

先生がなくなってから2年後、たかしと別れたこうたろうは、小さな町にいました。先生のようなすばらしい曲を作ろうと、がんばっています。朝から夜まで、休むこともなく、いろいろと曲を書きました。

でも、こうたろうはまだ知られていないピアニスト。曲もうまく書けません。書けたとしても、どうやって売ればいいのか分かりません。こまったこうたろうは、先生の友だちだった、きよしさんをたよりました。

曲を見せたところ、売れるようにしてあげよう、といわれました。お金がほしかったこうたろうは、うれしくなって、楽譜をわたしました。

しばらくすると、こうたろうの曲は売れるようになりました。そのおかげで、お金が手に入り、生活が楽になりました。

ある日、あたらしい曲を見てもらおうと、きよしさんの家にいきました。そこで、なんと“ひびき”の楽譜を見つけたのです。しかも、たかしが作ったことになっています。

きよしさんはいいました。「あー、それかい？今、とっても売れている曲なんだよ。楽譜もCDもね」

こうたろうは、“ひびき”に再会したよろこびと、たかしへの怒りでいっぱいでした。なんとしてもたかしを探さないと、そう思いました。

1のポイント

- ☆ 最初に“ひびき”を作ったのはひびき先生です。
- ☆ “ひびき”はたかしが作ったことになっています。
- ☆ 人の作品を勝手に自分のものにしていいのでしょうか？

問い

1. こうたろうはなぜ怒っているのでしょうか？
2. たかしが“ひびき”を自分のものにしたことは悪いことなの でしょうか？なぜ悪いことなののでしょうか？